

# 令和5年度第2回（通算第35回）文化大学のお知らせ

令和6年 3月10日（日） 15～17時開催

## ・講師 手塚 宮雄（てづか・みやお）さん

1947年米沢市生まれ。米沢興譲館高等学校卒業。東北大学文学部英文学科卒業。宮城県気仙沼水産高等学校を振り出しに、山形県立小国高等学校、米沢興譲館高等学校、米沢東高等学校で英語教員、置賜農業高等学校及び米沢興譲館高等学校で教頭、米沢商業高等学校校長で定年退職。  
1987年米沢英語研究懇話会設立に参加。2009年～2021年会長。2017年～現在、米沢有為会理事・文化広報部長。  
1991年文部省派遣英国短期留学（2ヶ月）。



## ・演題 米沢における戦後英語教育の実践

— 米沢英語研究懇話会の活動を通じて —

<講演要旨>

### 1 米沢における戦後英語教育の概観

戦後、当時の文部省の学習指導要領に基づいて、中学校と高等学校に「英語」が選択教科として導入されたが、やがて国際化や社会の情報化に伴い必修教科となった。その際、学習指導要領では「聞く、話す、読む、書く」の4技能の育成が目標とされたが、現実にはバランスの取れた英語の学力、特にコミュニケーション能力は長い間伸び悩んだ。それはなぜか。教師達の模索と奮闘が続いた。

しかし、ようやく2018年、文部科学省が小学校に外国語活動と教科外国語（英語）を導入することを含む新指導要領を改訂するに及んで、日本の英語教育は「いわば」革命の変革の時代に入ったのである。

このような戦後70年以上に及ぶ英語教育をめぐる状況の中で、米沢の中学校・高校の英語教員たちはどのような指導を行ってきたのだろうか。教科書・指導法・入学試験・英語教育研究会・LL機器・ALTの導入・辞書や英語検定試験などを通して、小・中・高校の英語教育の変遷を辿ってみたい。

### 2 「米沢英語研究懇話会」の活動35年間の軌跡

戦後も42年を経た1987年、松野良寅氏（当時山形大学教授）が米沢市を中心とした置賜地区内の中学校・高校・大学の英語教員に呼び掛けて、研修会組織を立ち上げた。その名称は「米沢英語研究懇話会」。顧問団に東京から7名の大学の先生方を招聘し、会員の切磋琢磨と交流により英語教員の資質と情熱を高め、山形県内で学力不振とされていた当地区の英語教育の効果を上げようと意図したのである。地区内から多くの英語教員が趣旨に賛同して集まり、意欲的な研究・実践活動が始まった。

具体的には、当懇話会の活動35年間の軌跡の一部を振り返りながら、設立の目的と背景、講師紹介、例会発表、機関誌『ACORN』の紹介などを行ってみたい。